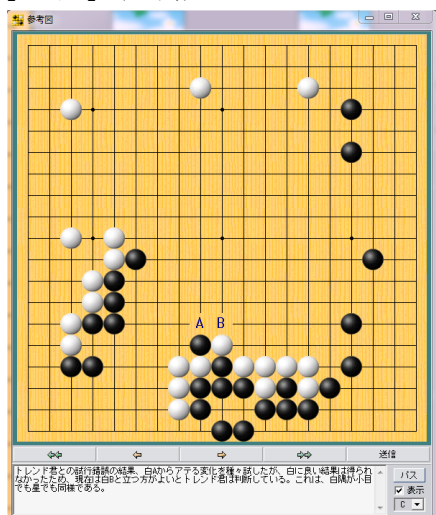


34. ハマリのパターン 1（その後）

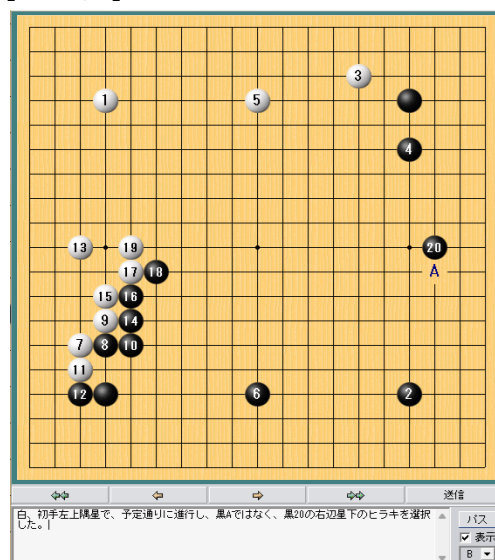
2024 年 5 月、6 段の Trend 君が増えてきていたので、久しぶりに Trend003 君他と三連星ツケノビ布石を試してみた。Trend003 君と Trend140 君はほぼ 100%の確率で 27 図まで

【27 図】（再掲）



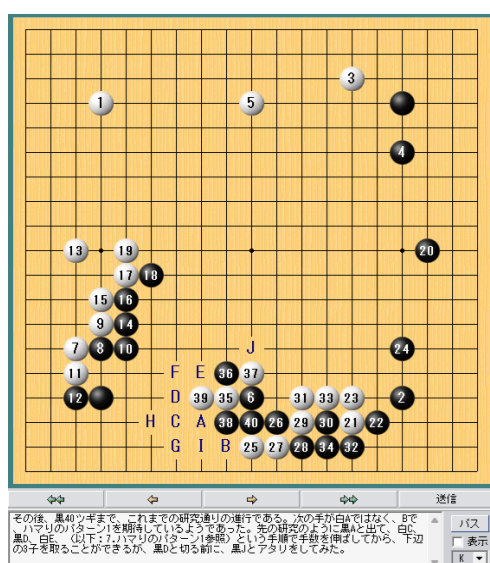
再現する。ここまで考慮時間を使わずに打てるなら、勝利は間違いない。しかしながら、他の Trend 君はここまでは付き合ってくれないので、なかなか思うようには勝てない。その中で、Trend141 君が「7. ハマリのパターン 1」の変形を見せてくれたので、研究報告に追加することにした。

【76-1 図】



【76-1 図】白、初手左上隅星で、予定通りに進行し、黒 A ではなく、黒 20 の右边星下のヒラキを選択した。

【76-2 図】

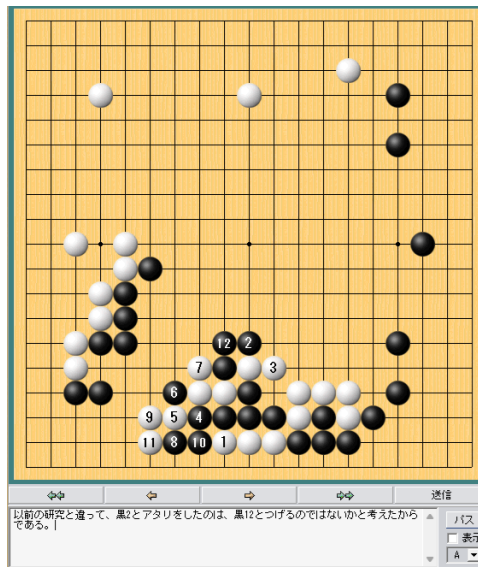


【76-2 図】その後、黒 40 ツギまで、これまでの研究通りの進行である。Trend141 君は次の手が白 A ではなく、B で、ハマリのパターン 1 を期待しているようであった。先の研究のように黒 A と出て、白 C、黒 D、白 E、（以下：7.ハマリのパターン 1 参照）という手順で手数を伸ばしてから、下辺の 3 子を取ることができるが、黒 D と切る前に、黒 J とアタリをしてみた。後述するように、この石をツグチャンスがあると考えたのだ。

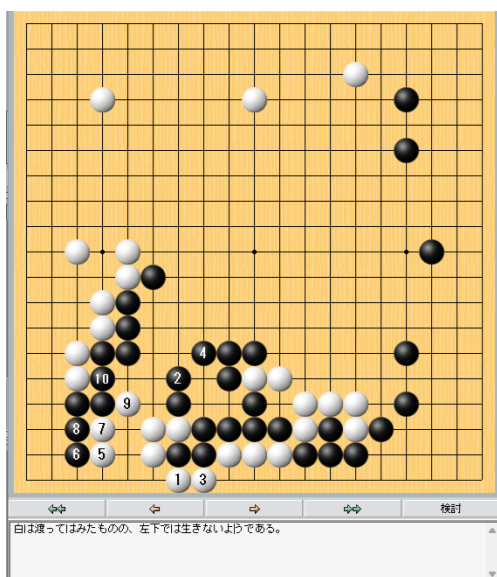
【76-3 図】

以前の研究と違って、黒 2 とアタリをしたのは、黒 12 とツギのチャンスがあるのではないかと考えたからである。白が下辺を渡って、黒が 3 子を抜くことになった。

【76-3 図】



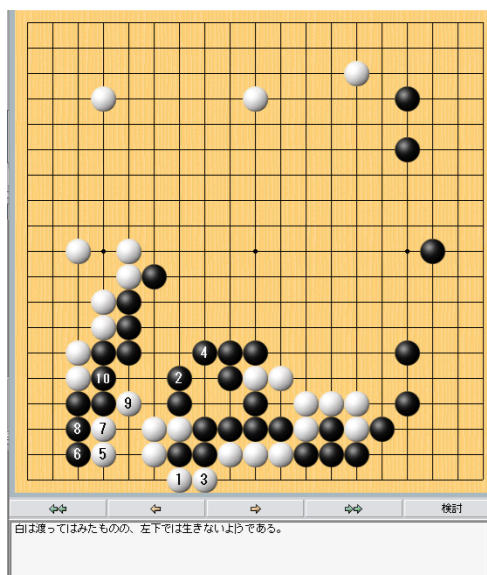
【76-4 図】



【76-4 図】

白は渡ってはみたものの、左下で白にイキはないようである。

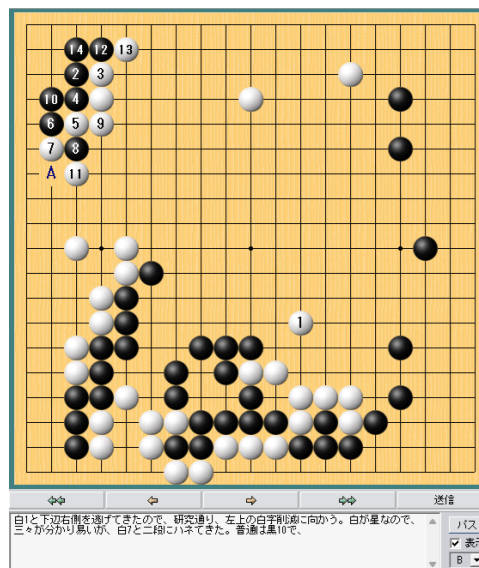
【76-5 図】



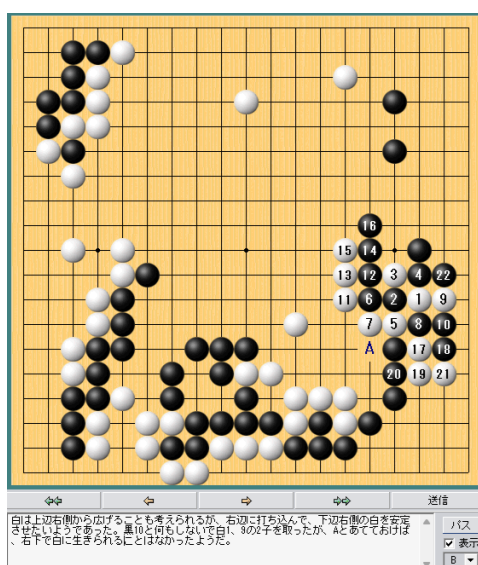
【76-5 図】 この碁は左上が星ということや右辺が星下に開いてあることなどから、これまでの研究にない形が生じたので、投了までを追っかけてみる。

【76-6 図】 白 1 と下辺右側を逃げてきたので、以前の研究通り、左上の白地削減に向かう。白が星なので、三々が分かり易いが、白 7 と二段にハネてきた。普通は黒 10 で、A と白 7 の石を抱えるところであるが、隅を生きる方がゴールに近いと考えたのだ。しかし、浅はかであったと後悔した。

【76-6 図】



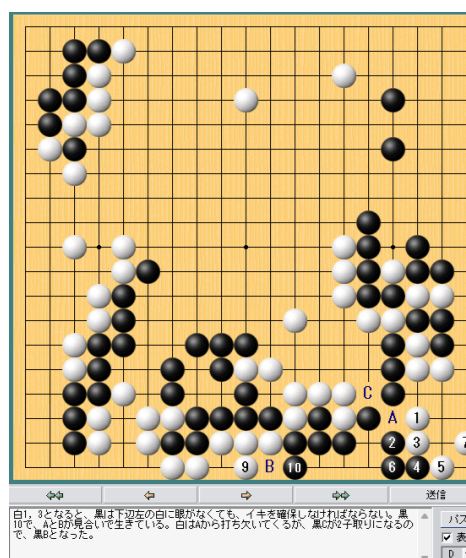
【76-7 図】



【76-7 図】 白は上辺右側から広げることも考えられるが、右边に打ち込んで、下辺右側の白を安定させたいようであった。黒 10 と何もしないで白 1、9 の 2 子を取ったが、A とあてておけば、右下で白に生きられることはなかったようだ。

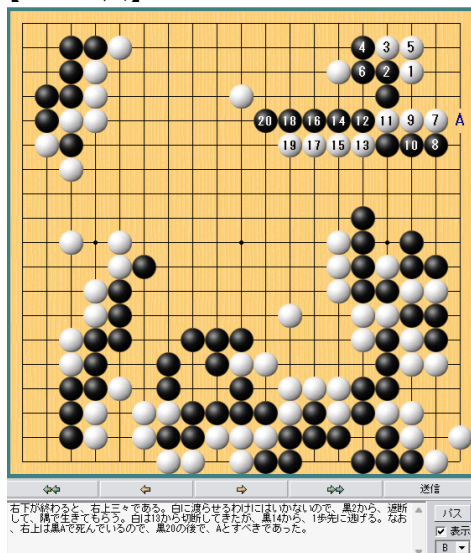
【76-8 図】 白 1、3 となると、黒は下辺左の白に眼がなくても、イキを確保しなければならない。黒 10 で、A と B が見合いで生きている。白は A から打ち欠いてくるが、黒 C が 2 子取りになるので、黒 B となった。

【76-8 図】



【76-9 図】 参考：黒 1 とあててから、黒 3、5 とすれば、白 8 からの出切りがないので、白が右下で生きることはないのである。

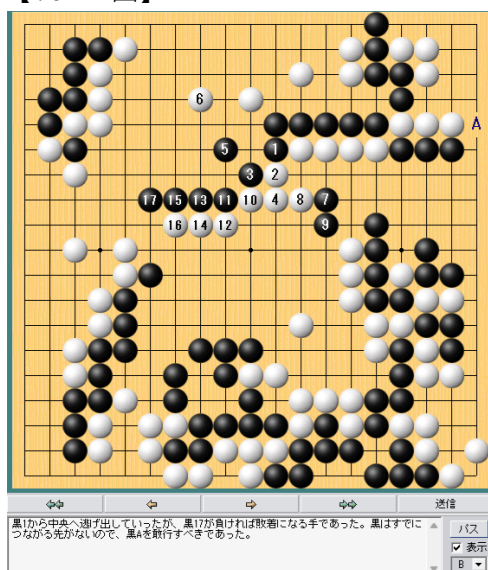
【76-10 図】



【76-10 図】 右下が終わると、右上三々である。白を渡らせるわけにはいかないので、黒 2 から遮断して、隅で生きてもらう。白は 13 から切断してきたが、黒 14 以下、1 歩先に逃げる。なお、右上は黒 A で死んでいるので、黒 20 の後で、A とすべきであった。

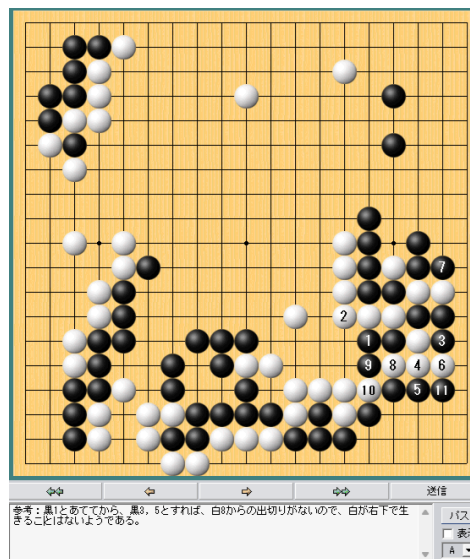
【76-11 図】 白は右上を生きる前に、黒に脅しをかけてきたが、ここでも黒 A から取りに行くべきであった。

【76-12 図】

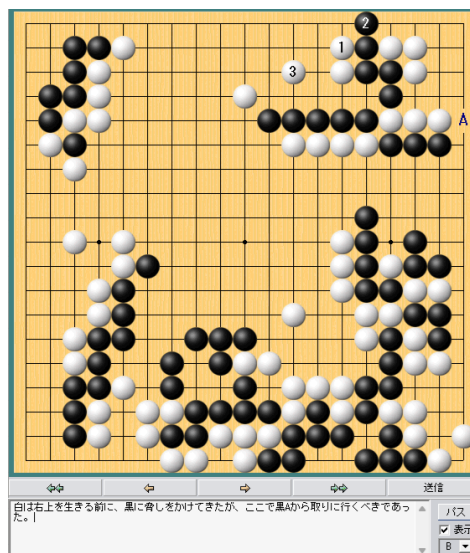


まだ地合いは黒優勢で、「中央の黒が死ななければ勝ち」が見えてきている。

【76-9 図】



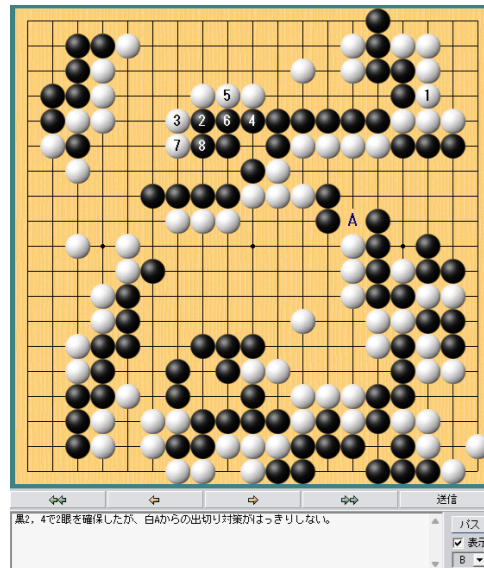
【76-11 図】



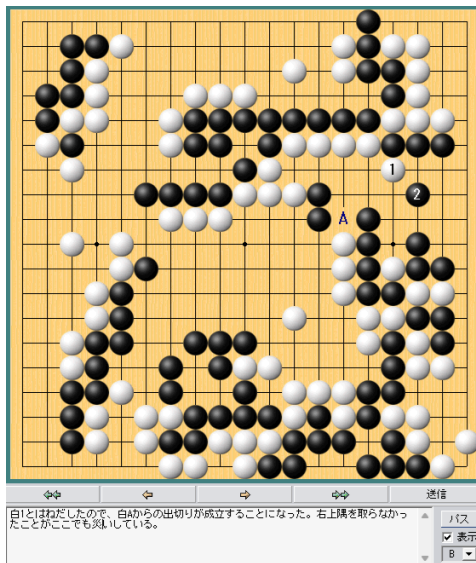
【76-12 図】 黒 1 から中央へ逃げ出していったが、黒 17 が負ければ敗着になる手であった。黒はすでにつながり先がないので、黒 A を敢行すべきであった。下辺左が取れているので、ま

【76-13 図】 黒がどこにもつながらないことを確認して、白 1 と右上隅を生きたので、黒も生きなければならなくなった。黒 2, 4 で 2 眼を確保したが、白 A からの出切り対策がはっきりしない。

【76-13 図】



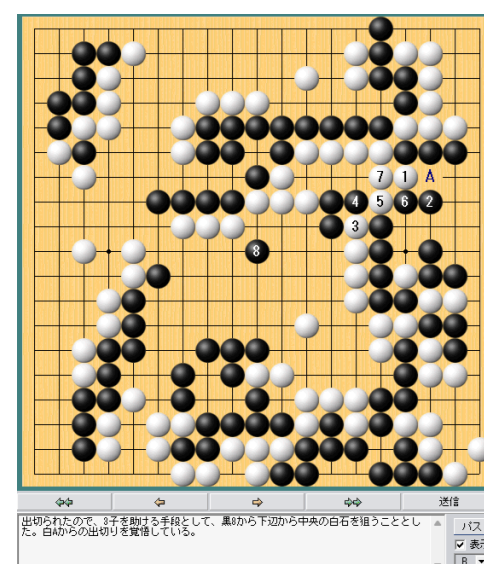
【76-14 図】



【76-14 図】 白 1 とはねだしたので、白 A からの出切りが成立することになった。右上隅を取らなかったことがここでも災いしている。

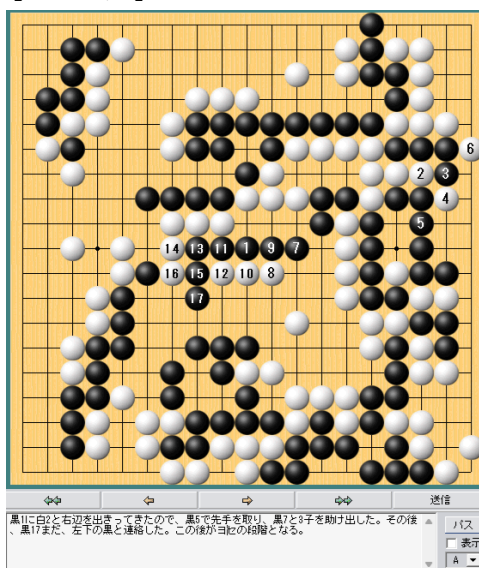
【76-15 図】 出切られたので、3 子を助ける手段として、黒 8 から下辺から中央の白石を狙うこととした。白 A からの出切りを覚悟している。

【76-15 図】

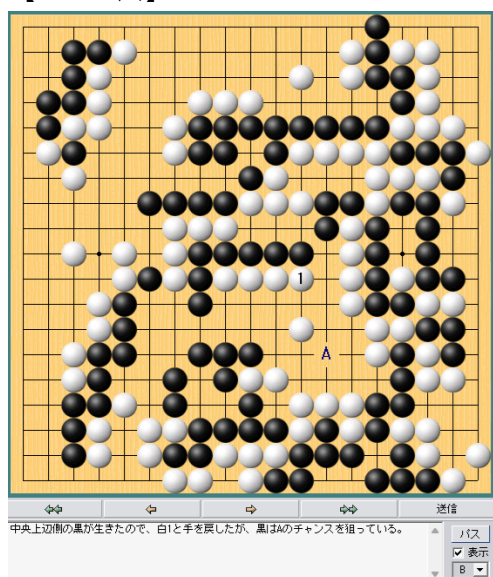


【76-16 図】 黒 1 に白 2 と右辺を出きってきたので、黒 5 で先手を取り、黒 7 と 3 子を助け出した。その後、黒 17 まで、左下の黒と連絡した。ここからヨセの段階となる。地合いはすでに怪しくなっている。

【76-16 図】

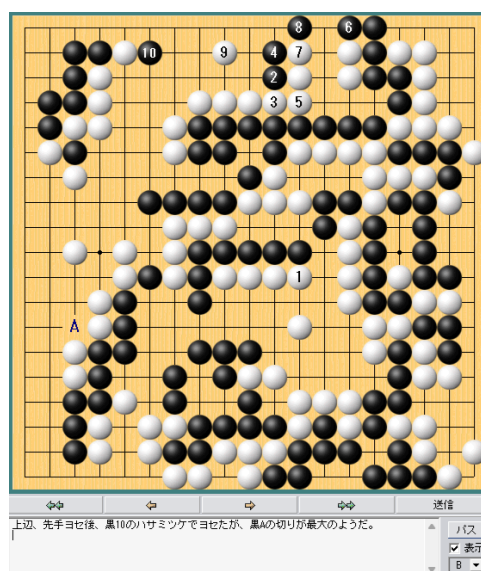


【76-17 図】



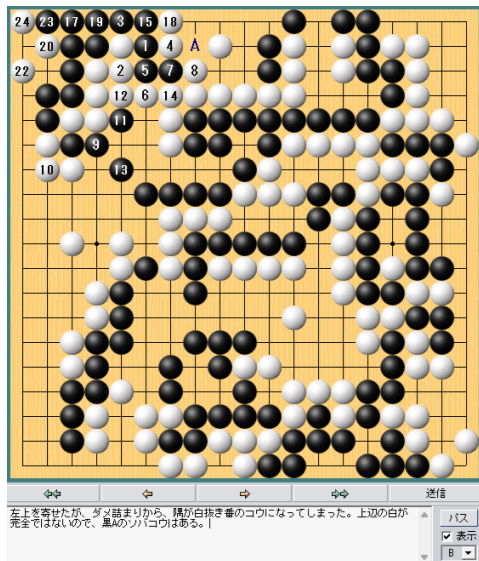
【76-17 図】 中央上辺側の黒が生きたので、白 1 と手を戻したが、黒は A のチャンスを狙っている。

【76-18 図】



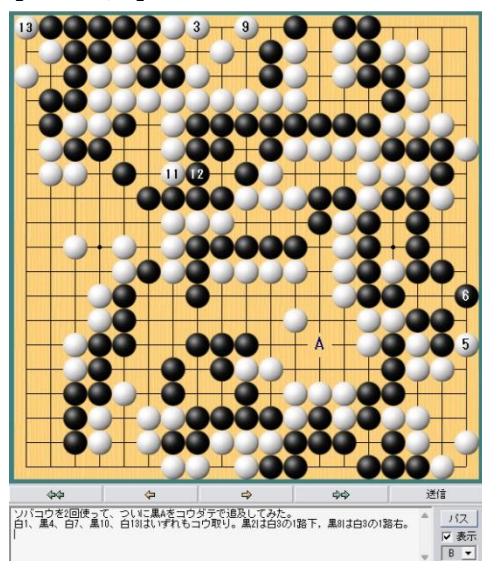
【76-18 図】 上辺、先手ヨセ後、黒 10 のハサミツケでヨセたが、黒 A の切りが最大のような。

【76-19 図】



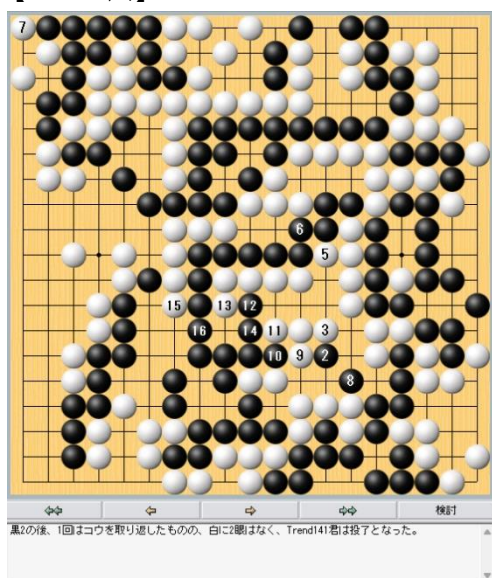
【76-19 図】黒 2 以降、左上を寄せたが、ダメ詰まりから、隅が白抜き番のコウになってしまった。上辺の白が完全ではないので、黒 A のソバコウはある。

【76-20 図】



【76-20 図】ソバコウを 2 回使って、ついに黒 A をコウダテで追及してみた。
白 1、黒 4、白 7、黒 10、白 13 はいずれもコウ取り。黒 2 は白 3 の 1 路下、黒 8 は白 3 の 1 路右。

【76-21 図】



【76-21 図】黒 2 の後、1 回はコウを取り返したものの、白に 2 眼はなく、Trend141 君は投了となった。(248 手 黒中押勝ち)